



第76号 (季刊)
平成17年10月
田中野田町内会

<http://townweb.litcity.ne.jp/tanakanoda/>

暑い暑いと言いながら何時の間にか秋の訪れ。僅かに残った田んぼの畦に真っ赤に咲いた彼岸花や、車の音にかき消されがちだが、夜になるとかすかに聞こえる虫の音が季節を教えてくれている。

西バイパスが開通してわずか2ヶ月、地域に急激な変化をもたらした。良きにつけ、悪しきにつけ、さすがに国道は格が違うなど痛感させられる。とりわけ、利便性が格段に向上し、国道2号との接続の良さは言うことがない。反面、西バイパスに流入する交通量が急増した。しかもスピードを出しての通行には、慣れないせいか見ていて恐怖すら感じる。

先般死亡事故が早くも起きてしまったように、安心して、穏やかに暮らすのが難しくつつある地域になったのかなと思つたのである。

もちろん、危険を防ぐ処置は適宜適切に行つて行かねばならないが、落ち着いてのんびりと暮らせる地域をいつまでも望んでいるわけにはいかなかった。

更に北へ延び、180号に接続されればそんなのきななことなど言っておられない。どんどん地域が変わっていくことに、一抹の寂しさを感じるのである。

さて、近年我が国においては、コミュニケーション力の低下が著しく、そのことが大きな社会問題となっているとの指摘がある。すなわち、見知らぬ人同士が、たとえば飛行機で十時間以上も隣同士で座っていてもほとんどの場合、会話は成立しないと言われる。

年配であろうとも、若い人であろうとも関係なくこの傾向が年々強くなっている。昔は、電車の中でも、路上でも、どこでも見知らぬもの同士すぐに会話を始めたものであって、それが自然だった。

技術革新がとてつもない便利さをもたらしたせいかもしれないが、私たち日本人の破滅的ともいえる変化は、「人と人とがかかわり合わなくなった」、「かかわる努力をしなくなった」ことでありましょう。見知らぬ者同士ではもちろん、恐らく家族であっても、本当はかかわっていないのかもしれない。

子育て中のお母さんのほとんどは、躰のモットーとして

「他人に迷惑をかけないこと」を第1義にあげられるそうである。しかしこれが怪しいのです。「迷惑です」、「止めて下さい」ときちんと思表示をしている「他人」を見たことがない。例えば、電車で2人分の座席を占めている人に「詰めて頂けませんか」とは誰も言わない。

このように「他人に迷惑をかけない」という躰のモットーは、「迷惑」をはっきりと主張する「他人」が存在しなくなった日本では意味を持たなくなったのだ。これは日本の社会全体から失われたものといえる。そしてまたその責任は私たち全員にある。

見知らぬ人同士まではさておいて。まずは、近所同士が

たわいもない話でもいいから、気軽に話し合いのできる環境作りに取り組んで行かねばならない時期に来ているのではないのか。そして、その運動を積極的に担える団体の一つとして、我が町内会も存在しなければならぬと思うのである。

コミュニケーション力の向上と 町内会活動

田中野田町内会会長
和氣 健

毎日のように少年の犯罪がニュースになる。校長や担任や友人が次のようにコメントする。「無口だった」、「友達がいなかった」、「おとなしかった」、「存在感がなかった」。彼らに欠けているのはコミュニケーション力なのである。

こうした不幸な子供達を作らないためにも、みんなで力を合わせ少しずつこの事態を前進させたいものだ。

さしあたって、氏神様である「白鬚宮」の秋の祭典がある。今年是我が町内が当番にあたっている。お世話を頂く皆様方には、いい祭りができるよう、お力をお貸しいただきますようよろしくお願い申し上げます。また、町内では子供会育成会の主催で御輿、だんじりの引き回しと前夜祭が行われる。町内会の皆様方にはコミュニケーション力を向上させる場としてご参加下さるようご案内申し上げます。

最後になりましたが、10月1日付の国勢調査が始まります。近年は個人情報保護の概念が強く作用し、調査がだんだんと難しい状況になっています。国の現在の状況を的確に把握するための調査は大変重要なことであります。調査員は全員信用できる町内会の仲間なので、ご理解、ご協力を頂きますよう心からお願い申し上げます。